2020年9月（第1回・第2回）
FD・SD研修　実施報告

群馬医療福祉大学 FD・SD委員会

2020年度FD・SD研修会は、COVID-19対策のため3密を回避するとともに、長時間に及ぶ研修会となることも避けながら行った。以下に、コロナ禍の中で実施した第1回・第2回の研修について報告する。

第1回研修会

研修テーマ「シンポジウム　昨今の高校生事情」

■日時・場所・参加者

日時：9月9日（水）　10：40～12：30

会場：群馬医療福祉大学前橋キャンパス1号館大講義室

参加者：群馬医療福祉大学・群馬医療福祉大学短期大学部 教職員（会場にて受講）　/　群馬医療福祉大学・群馬医療福祉大学短期大学部 非常勤講師（オンラインで受講）

※専任教員は研修会前に行われた「教授会・専任教員会」に出席したため、事務職員とともに会場において受講した。しかし、非常勤講師には新型コロナウイルス感染拡大防止のため3密を避けるべく、Zoomでの参加を依頼した。

■目的：学生を受け入れ教育するにあたり、高等学校においてはどのような仕法で学習支援・進路指導等を行っているのかを知り、授業・生活指導に活かす。

■内容：本学には5名の高等学校校長経験者が勤務しており、何校もの高等学校（県立）勤務を経て豊かな教育経験を有している。この5名の諸賢による現場経験に基づく教育シンポジウムを実施した。

シンポジウム開始に先立ち、学長より次のような訓話があった。「大学は教育が中心である。そのため、〝教育とは何か〟を5名の教育の専門家に語っていただき、何のために何に向かって行動するべきかを学び、学生に意義ある学生生活を送らせてほしい。」

そして、シンポジウムは塚本看護学部長の基調講演から始まった。登壇者及び発表内容は以下のとおりである。

＊塚本忠男 看護学部長･･･基調講演「教育とは / 学生指導（クラス経営と授業実践）で留意したいこと」

＊山口和士 入試広報センター長「面談力―学生に現実、未来と向き合う勇気を与える力―」

＊田村浩一 地域連携センター長「今の高校生を見て感じること / 授業改善に向けての高校の取り組み / 課題（特にアクティブラーニングを取り入れた授業に関して）」

＊戸塚泰聖 高等教育支援センター長「高校での学習・進路指導」

＊小林義信 高等教育支援センター副センター長「支援を必要とする子どもたちとのかかわりから / 支援を必要とする子どもの高等学校等への進学について」

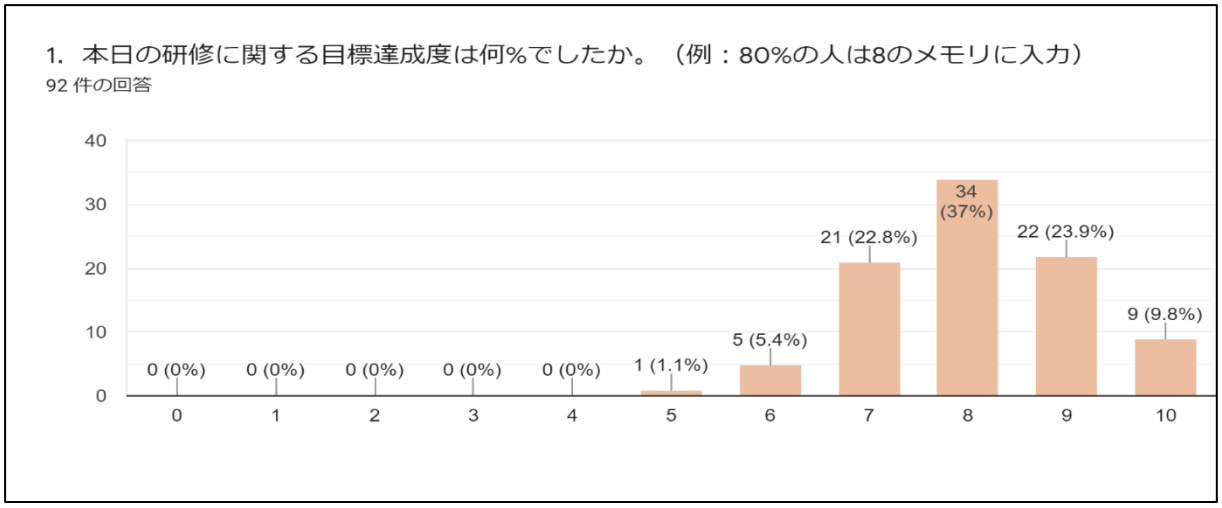
■成果

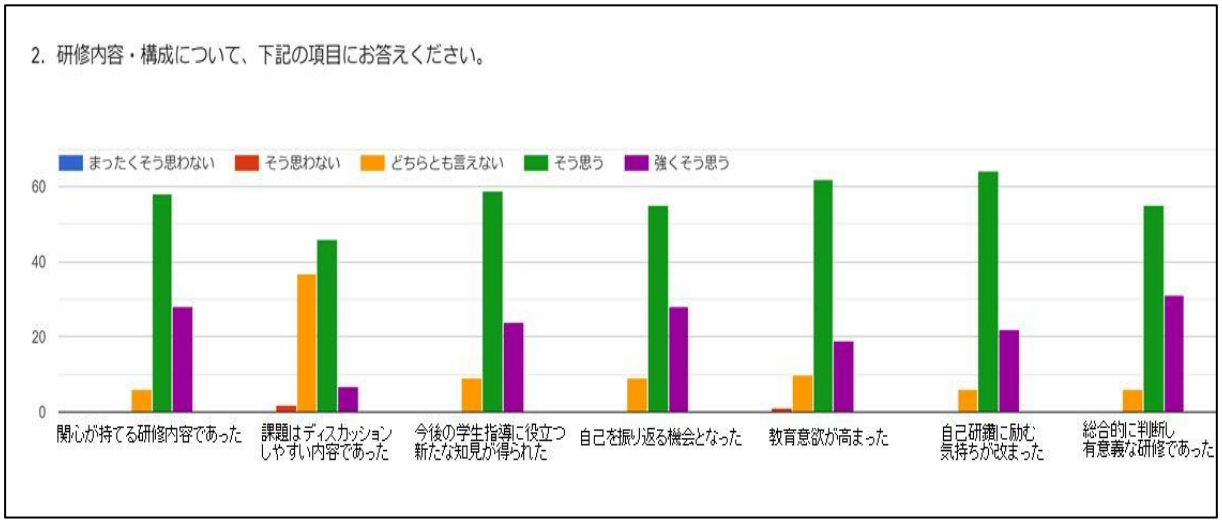
まず、専任教職員の出席状況については以下の表のとおりである。当日は出張（高校訪問）のため出席できなかった教職員があったものの概ねの参加数が得られた。

出席状況（参加率）

キャンパス	所　属	9月9日（水）
前橋	社会福祉学部教員	84%
	短期大学部教員	91%
	職員	75%
藤岡	看護学部教員	85%
	職員	88%
本町	リハビリテーション学部教員	90%
	職員	67%

次に、参加者が本研修を受講しての達成度については、次のアンケートの集計結果より業績として申し分ないものと考えられる。





出席者からの所感について概観すると「有意義な研修であった」とするものがほとんどを占めた。内容は、

・豊富な教員生活の中での経験を具体的に示しながら語っていただき、わかりやすく熱意を感じた。

・昨今の学生の状況・特質がわかり、学生を理解するための糧となった。

・面談の重要性・アクティブラーニングの真意がわかり、励まされる思いであった。

・高等学校での指導の背景やあり方を知り、事務職員として教員とは違う立場だからこその学生との接し方について学ぶことができた。

とするものであり、いずれも「後期からの授業や学生指導に活かしたい」としている。さらに、今後に向けて「このシリーズを続けてほしい」「今回のシンポジウムをもとに、議論の場を提供してほしい」との要望が多数見られた。また、シンポジストの発表後に質疑応答の時間を設ける中で２件の質問（「自己

肯定感の低い学生への対応の仕方」「高等学校における点数をとることを重視する教育と主体性を重視する教育との齟齬」）が挙がったが、これらに対する登壇者たちの回答も本シンポジウムの内容理解をより深化させる好要因となった。

今回の研修の目的を達成すべく、FD 委員会はシンポジストの先生方との事前打合せを行った。5 名の発表内容が有機的に関連し、また、限られた時間内でその知見を伝えるための協議を行ったことにより、短時間でも充実した研修となったと考えられる。

■課題

第 1 回研修は非常勤講師も交えた研修であり、前述のとおり非常勤講師には Zoom での参加を依頼した。しかし、遠隔でのシンポジウム開催には問題も生じた。それは「音声が聞き聞き取りづらかった。」という申し出が多数あったことである。COVID-19 対策のため、シンポジストにはマスク着用を依頼したため、声が籠もった結果であると思われる。

今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための遠隔による研修を余儀なくされる可能性は大きい。そのため、手立てを講じ、受講環境に支障を来すことがないよう工夫していきたい。

第２回研修会

第２回研修は、前半はFD・SD共通のテーマについて受講したが、後半については教員と事務局職員とに分かれ、それぞれの課題についての研修を行った。以下、FD研修会・SD研修会それぞれの別に報告する。

◆FD研修会

■テーマ･目的

＊テーマ１：「医療技術学部（新設学部）情報―医療技術学部のご紹介―」**（FD･SD共通）**

目　的：新設学部についての情報を得、新年度に向けての準備を進める。

＊テーマ２：「ティーチング・ポートフォリオ作成について」

目　的：担当科目についての教育理念をはじめ、授業の工夫・学生による授業評価の結果を文章化し、公表する。

■日時･会場

日時：9月16日（水）　10：40～12：15
場所：群馬医療福祉大学前橋キャンパス２号館中講義室
参加者：群馬医療福祉大学・群馬医療福祉学部短期大学部 専任教員

■内容

テーマ１として取り上げたのは、「医療技術学部（新設学部）情報―医療技術学部のご紹介―」であり、FD・SD共通の研修である。

はじめに、新設学部である医療技術学部の学部長として着任する村上博和先生より、養成する人材・カリキュラム・教員構成・国家試験などに関する紹介があった。続いて、新学部設置準備室長の大竹勤先生より、設置認可申請業務の内容・新校舎についての紹介が行われた。いずれも、写真や図表を用いての理解しやすく親しみやすい解説であった。

テーマ２は、岡野康幸先生による「ティーチング・ポートフォリオ作成について」の説明である。専任教員が自身の担当科目の情報をインターネット上に公開するための書式についての説明が為された。それらは、教育の責任、教育の理念・目的、教育の方法、教育の成果・評価、教育を改善するための努力、今後の目標（短期・長期）についての記述方法を中心とする内容であり、岡野先生自身の「ティーチング・ポートフォリオ」を提示していただきながらの詳説であった。

■成果

第２回研修会の出席状況は、次の表のとおりであった**（便宜上、専任教員〈FD〉･事務局職員〈SD〉両者の出席状況一覧を示す）。**

■出席状況（参加率）

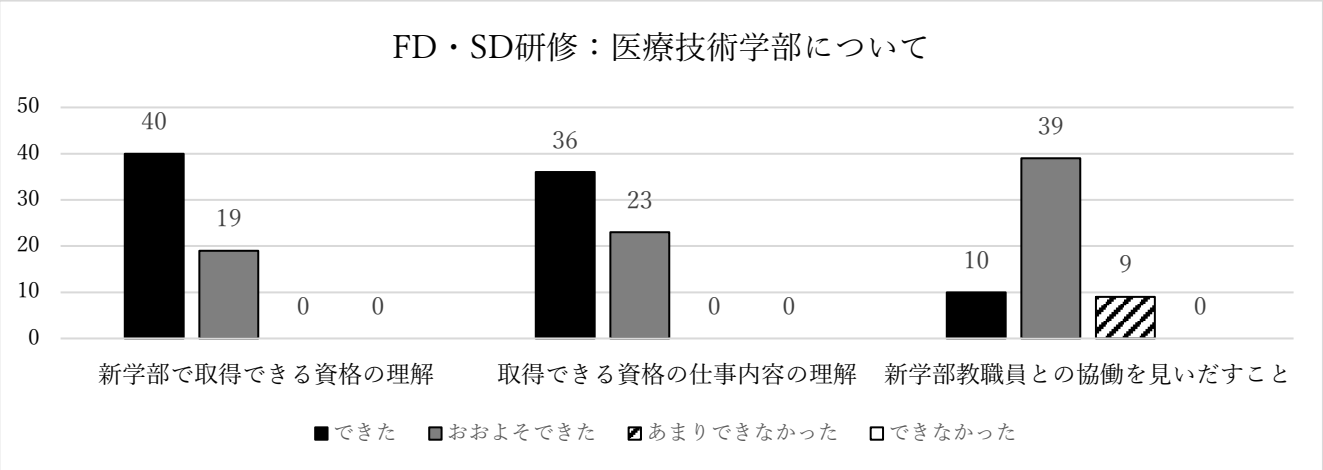
キャンパス	所　属	9月16日（水）
前橋	社会福祉学部教員	84%
	短期大学部教員	91%
	職員	71%
藤岡	看護学部教員	48% （Zoom参加を含まず）
	職員	63%

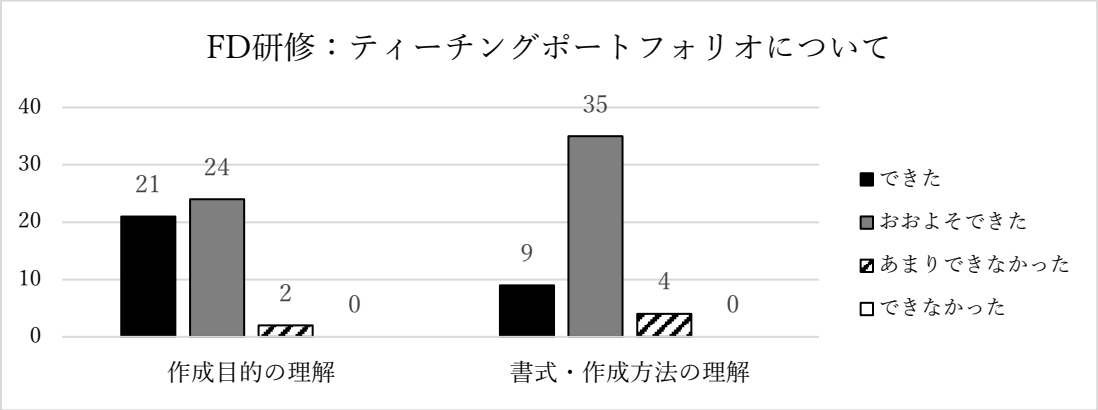
本町	リハビリテーション学部教員	85%
	職員	100%

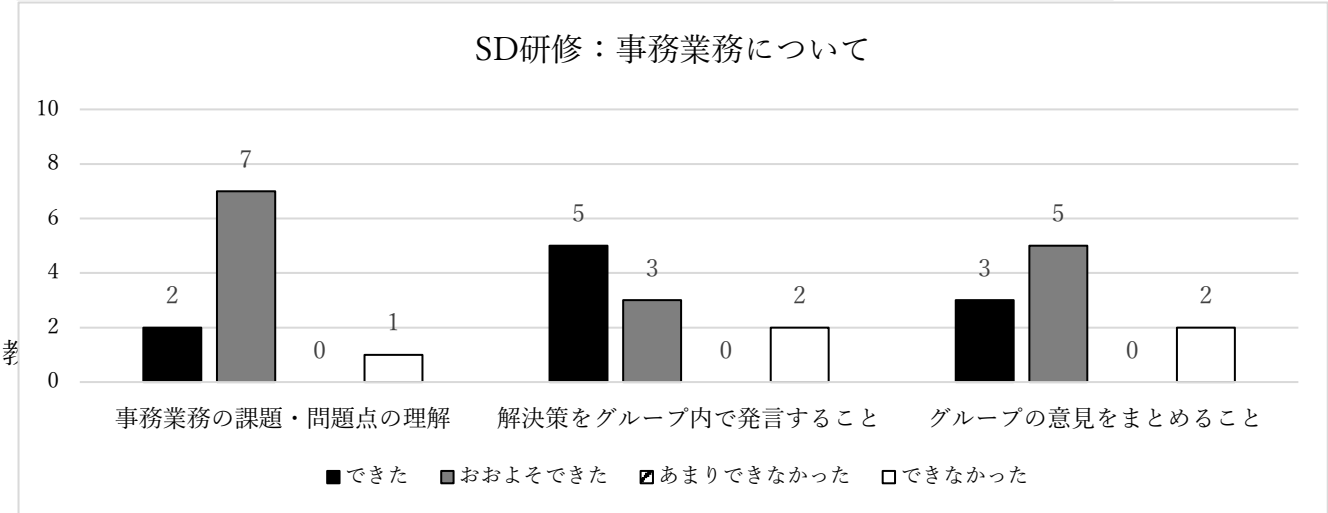
看護学部の教職員については参加状況が振るわない印象であるが、この日は学生の実習指導のため出席が叶わないという理由によるものである。新型コロナウイルス感染拡大のため実習の時期が変更になり、上記の結果となった。

次に、出席者が受講しての達成度をアンケートの結果から示すと、以下のような結果となった**(達成度についても、FD・SD 両者を示すこととする)**。

2020 年度 FD・SD 研修会(第 2 回)アンケート結果







職員との協働を見いだすこと」に関しての人的な側面については、具体的なイメージを掴むことが難しかったと思われる。

次に、FD 研修テーマ２「ティーチング・ポートフォリオ作成について」においては、インターネットでの公開を前提としていること・作成原稿は A4 用紙 8 枚程度との説明がなされたことのほか、自身の教育の理念について述べることが示されたためか、理解が及ばなかったとする教員が見られた。実際、アンケートの自由記述を閲すると、「いざ作成する段になると、わからないことが出てくると思うので、作成マニュアルを作ってほしい」「2 月の締め切り日までに作成できるかどうか心配である」「ある程度書き進めた時期を見計らって、質疑応答のできる研修会を開いてほしい」などの意見があり、大仰に考えていることが掴めた。そのため、後日、講説者の岡野先生より研修会で用いたパワーポイントの原稿を送信していただき、参考にしながら作成するよう取り計らった。

■課題

上述したように（成果の項)、新設学部の教職員との協働の方途に関しては見出し難いとする見解もあった。しかし、教育に関しては教員同士が知見を活かし合いながら連携すべきであり、そのためにはお互いの研究（専門）分野を知ることが必要であろう。今後は、学問的な面での相互理解の工夫を行っていきたい。

また、ティーチング・ポートフォリオ作成に当たっては、FD 研修の一環として「教員間の授業参観（ピア・レビュー)」を実施中である。これは授業参観をし合ってお互いの〝良いところ〟を見出し、より良い授業を行うための試みである。そのため、ため、岡野先生より入手した説明資料を参考にするとともに、ピア・レビューによって得た情報もティーチング・ポートフォリオ作成に供することを伝えていきたい。

◇SD 研修会

■テーマ・目的

＊テーマ１：「医療技術学部（新設学部）情報―医療技術学部のご紹介―」**(FD・SD 共通)**

目　的：新設学部についての情報を得、新年度に向けての準備を進める。

＊テーマ２：「有用性のある掲示板の活用について」

目　的：学内掲示板だからこそできる有効な活用法を考える。

■日時・場所・参加者

日時：9 月 16 日（水）　10：40～12：50

場所：群馬医療福祉大学前橋キャンパス 2 号館 232－233 教室（テーマ 1 は、Zoom で受講）

参加者：群馬医療福祉大学事務局職員

■内容

テーマ１「医療技術学部（新設学部）情報―医療技術学部のご紹介―」については、上記 SD 研修と同内容である。
テーマ２「有用性のある掲示板の活用について」に関する成果の総別は FD 研修会の成果の項で示したが、詳細な報告については以下に記す。

テーマ：「有用性のある学内掲示板の活用について」

■目的

現在、ネット環境の促進により、メールや電子掲示板、SNS 等を活用することにより、学生への連絡は確実性が高まっている。以前のように学内の掲示板で連絡・案内する方法よりタイムリーに発信し、情報を確かに届けることが可能となっている。

一方で学内掲示板の活用については連絡を伝えるだけでなく、付加価値を期待している。メールや SNS については、自動的に情報が届くが、学内掲示板については自らが動き情報をキャッチしなければならない。いわゆる能動的な姿勢を育むツールとして活用することも望まれる。

これらのことから、学内掲示板の活用方法について見直す必要があり、通信を活用した連絡手段を活かしつつ、学内掲示板だからこそ発揮できる活用方法や教育を促すための活用方法を SD 研修において、グループで議論を重ね検討した。

各グループ活発な議論を交わし、様々な可能性を見出すことができていた。一方でメールや Web ポータルを活用した連絡手段は欠かせないツールとなっていることも分かった。そのため、今後においては双方を活用し、学生が迷わないよう掲出する必要がある。今後も検討を重ね、よりよい手段を模索していく。

グループワークでは、日ごろキャンパスや部署を超えての話し合いが少ないため、新鮮味があった。各自が考えを表現する場としても有益であったと考える。このグループワークではテーマに基づく話し合いと共に、もう一つのねらいが自らの考えや発想、可能性を表現し、グループに落とし込むことであった。このことが、各部署に戻った時（日常から）、担当業務の改善に向けて、会議以外の場でも常に話し合えるきっかけにするためである。

日ごろ、改善に向けて、思ったことを発することができず、有益な発想が埋もれてしまうことも考えられる。そうならないために、今回の研修を通して環境の改善を望む。

■方法

・テーマに基づき、ワークシートを用いてグループワーク。（ワークシートは別紙参照）

・A～F の 6 グループ構成。（1 グループ 4 名程度）※事務局対応者は動画配信

・各グループ「進行」、「書記」、「発表者」等役割分担し、ワークシートを用いてグループワークを展開。

■改善（アンケート集約）

令和 2 年 9 月 16 日実施した FD・SD 研修全体アンケートの他に SD 研修用のワークシート及び自由記述アンケートを参加者全員に配布し集約する。回収したワークシート・アンケートを基に次回の研修内容の検討及び業務改善につなげる。

※ワークシート及びアンケートは集約後報告をする。

資料

第１回 FD・SD 研修会

別　紙

ワークシート（項目を以下に記す）

1. グループワーク

（1）学内掲示板の現状について

（2）学内掲示板のメリット・デメリット

（3）今後の活用方法について（もたらされる効果含む）

2. 振り返り

（1）自分の考えや意見を述べることができ、グループに反映することができたか。

（2）他者の意見を素直に聞くことができ、自分の考えの参考にできたか。